

琉球大学学術リポジトリ

日米関係（沖縄返還） 53

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-14 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43851

重光 GRES 会 積 〇 昭 三 〇 八 〇 九

重光
GRES

+

+

+

+

昭和三十年八月二十九日。才一日。重光がプレス会議に出席し、

重光大任発言

を經てわれわれは日米協力の緊密化を國策の基調としてこれを國民に説いてゐる際にお多敷の戦犯なるものが存在し、全國に散在するその家族が日常の生活にも苦しみ抜いてゐる状態は到底日本國民の納得し得ざる所である。日米協力を友好的な心からのものでなしめらるるためには直ちに戦犯なるものをなくして彼等に自由の生活を与うべきであると信ずるのである。

又琉球諸島及び小笠原諸島に対する施政権が近い將來わが國に返還されること、わが國民全体の強い念願であることは御承知のとおりであるが、米軍飛行場があると伝えられる硫黄島を除き、軍事施設のほとんどない小笠原諸島に対する施政権が返還されることは、日ソ交渉におけるわが國の領土返還要求に強力な支援を与えることとなると考へる。この際の手始めの処置として妙くともわれわれのかねての要望に従つて小笠原諸島旧島民の帰島の實現方を希望する。

六 自立経済

日本が再建され自主独立を完成するためには経済上の自立を

5. 以下長方形の面積を求めよ。
問題 1. 図に示す長方形の面積を求めよ。

解答 1. $P =$

者がある。これらの釈放措置は一国だけでは執れないか、われわれは本件をも考慮するよう他の関係国と話をつけつつあり (We have an arrangement with the other countries concerned to consider them also.)

近い将来において七名の釈放が得られることと思ふ。

重光 貴大臣の執られつつある措置について深く感謝する。

重光 琉球、小笠原問題について申し上げる。(左記を朗読) (英

語原文別紙(参照))

大きな重要性を有する問題の一つは、平和条約第三条に言及された琉球、小笠原その他の諸島の日本復帰の問題である。米国民がこれ等ら諸島を早期に日本行政に復帰せしめることは、日本国民全体の熱烈な希望である。

これ等の諸島の日本の行政への復帰は島民の長い熱望を満足せしめるばかりでなく、特に漁業分野における日本経済に寄与するであろうことは附言するまでもないところである。

日本政府が前記の諸島に対する潜在主権を保有し又それ等諸島島民は日本国民であるとの見解に米国民政府が同意している事を確認される事を切に希望する。それは日本国民の抱いている懸念を

除去し又左翼勢力の本問題に対する好ましからざる煽動を封ずるであろう。ダレス氏は一九五一年九月五日桑港における平和会議の米国民代表の資格において、日本が琉球諸島に対する潜在主権を保有すると言明された事が想起される。

特に琉球諸島に関しては、米国民政府当局が島民の利益と安寧に充分の考慮を払われることを希望する。日本政府は、軍事目的の為に必要な土地の取得が、関係者に出来る限り不平の種を与えない様行われるならば、これ等の諸島においてのみならず日本本土においても、より好ましい雰囲気が生み出されるであろう。

軍事施設のはとんどない小笠原諸島に関しては、行政権の返還が極めて強く希望される。又その事は米国民の善意の有効な象徴となるであろう。若し直ちに与えられる第一次の手段として、これ等諸島の旧島民の故郷への帰還を許す手段がとられ得るならば、日米関係を改善する大なる前進がなされるであろう。彼等島民は故郷から離れて生計を維持することを余儀なくされ、非常な困難に遭遇しつつある。日本政府は彼等の救済の為に、東京都とともに一九五四年日本会計年度に三千七百万円を支払った。一九五五年

日本會計年度には、国会の決議に従つて、日本政府単独で彼等島民救済の為に一億円までの支払をすることとなつてゐる。斯る事情であるから、島民が帰島を許されぬ為に蒙つた損失について提起された請求権について米政府が同情ある考慮を払うことを希望する。

ダレス オブザーヴェーションとしては、米政府が現在の時期においては琉球及び小笠原のステータスの変更を考慮を払う用意なきことを明白にするより他はない。日本側の希望に感じ条約起草の際西南諸島の範囲を北緯二十九度以南とした。またその後奄美大島を返した。今これ以上のことは出来ない。またその用意もない。これら地域に米國は多額の経費をつぎ込んでおり、自分としてはこの時期に本問題を取り上げ agitation を行うことは共通の利益でないと考える。

Residual Sovereignty の件についてはサンフランシスコの會議で述べたことに背反するようなことはしない。

国籍問題については何か述べられたことがあるかどうか自分は知らないが法律専門家に研究させ、後に日本政府に通報するまで自分の立場を留保する (I reserve my position until the matter is studied

by the legal experts and will later advise the Japanese Government.)

。小笠原諸島については問題の所在をよく知らないのでコメントを控えたい。国防当局は反対していることを申上げる。

何人位 involve されているのか。

重光 約七千人が involve されている。軍事施設のある硫黄島は別
らく別としてその他の島についてはどうか。

ダレス 自分の記憶では海軍関係が軍事上の理由から強く反対して
いる。(My recollection is that defence people have valid security reason for objecting

It.)

以上で会談を終了し共同声明案の審議に入り、若干字句等の修正
を行い、琉球、小笠原諸島に関する節を削除した上これを午後六時
に公表することに合意した。(共同声明英文並びに日本文訳夫々別
紙(四)のとおりに時刻午後五時十五分)

CONFIDENTIAL

August 29, 1955

THE RYUKYU AND BONIN ISLANDS

1. A problem of major importance is that of the restoration to Japan of the Ryukyus and Bonins and such other islands as are mentioned in Article III of the Peace Treaty. It is the ardent hope of the entire Japanese people that the United States will restore these islands to Japanese administration at an early date. This is a subject on which national feeling is very strong.

It need hardly be added that the restoration of these islands to Japanese administration would not only satisfy the long cherished desire of the inhabitants of these islands, but would also contribute to Japanese economy, especially in the field of fisheries.

The confirmation by the American Government that it is in accord with the view that the Japanese Government retains residual sovereignty over the above-mentioned islands and that the inhabitants thereof are Japanese nationals is earnestly solicited. This would remove misgivings held by the Japanese people and prevent undesirable agitation on this matter by leftist elements. It is recalled that Mr. John Foster Dulles in the capacity of the Delegate of the United States to the Peace Conference at San Francisco stated on September 5, 1951 that Japan retains residual sovereignty over the Ryukyu Islands.

2. With regard in particular to the Ryukyu Islands, it is hoped that the United States authorities will give full consideration to the interests and the welfare of the population of the islands. The Japanese Government believes that, if the acquisition of land necessary for military purposes

is

- 2 -

is conducted so as to give as little reason for complaint as possible to the parties affected, a more favourable atmosphere will be created not only in the islands but also in the mainland of Japan.

3. With regard to the Bonin Islands where military installations are few, the return of administrative rights is very strongly hoped for and will prove an effective gesture of good will on the part of the United States. If as an immediate initial step, measures could be taken to allow the former inhabitants of these islands to return to their original homes, a great stride forward would nevertheless be made in improving Japanese-American relations. These islanders are undergoing extreme hardship, being obliged to make their livelihood away from their home islands. For their relief the Japanese Government, together with the Municipality of Tokyo, paid some 37 million yen in Japanese fiscal year 1954. In Japanese fiscal year 1955, the Japanese Government will, in order to comply with a Diet Resolution, by itself make disbursements to the extent of 100 million yen for the relief of these people. In this connection we hope that the United States Government will give their sympathetic consideration to the claims which have been presented with regard to the losses sustained by the islanders through not having been permitted to return to the islands.